

日本語検定 3 級取得を資格認定基準に追加



公益社団法人スコレ家庭教育振興協会
理事・事務局長 小俣富雄 氏

家庭教育の領域は、子育てだけでなく親子関係や夫婦関係など、生活全般で生起する人生の様々な課題と深くかかわっています。これらの課題を克服していくためには、日々の生活を通じて生き方を磨き、人とのかかわり方を豊かにしなければなりません。スコレ家庭教育振興協会は、「日本の家庭が壊れかけている」という危機感から、37年前、家庭を良くするための生涯学習を、草の根運動として展開するために設立された生涯学習団体で、家庭を基点とした生活学習、共同学習、体験学習によって自分を熟成させるための事業を全国展開している公益社団法人です。

具体的には、①誰でも参加できる「家庭教育講座」や「発声トレーニング」を全国各地で開催、②会員には、独自の教育システムとカリキュラムによって、「人間として如何によりよく豊かに生きるか」を学ぶ

自己学習の場を提供、③豊かな心を持った家庭人を育てる一つの実践としての各種ボランティア活動の実施、など家庭教育に関連する様々な事業を展開しています。

多彩な会員向け研修の一つに『自己発見の旅』学習というカリキュラムがあります。これを受講すると、自分が幼かった頃にさかのぼって思い出して表現し、整理することになります。これによって自分の言うべきことが言え、他人の言うことが聞け、更にはプラス思考になれるため、人間関係や人生を豊かにすることができます。この研修では、レポートに対し、必ずコメンテーターと称するカウンセラーから丁寧なコメントが添えられます。

受講生からは「このコメントが戻ってきた時、私が書いた両親の長所や両親にしてもらったことなど、全てを電話口で母親に読んであげました。母はしばらく泣いていましたが、紙に書いたものがあれば欲しいと言いました」。「私がどんなレポートを提出しても、コメンテーターが褒めてくださるので、



大人でも褒めてもらうことは嬉しいものだと、生きるエネルギーをいただきました」といった趣旨の感想が寄せられています。

2001年からスタートした同学習の受講生は、延べ2,340人。コメンテーターの資格は2級から5級までの4段階があり、現在の有資格者は26名です。お陰さまで受講待ちの会員が増え、コメントが追いつかない状況にあります。更に増員する必要があるものの、日本語全般に精通していなければ、有益なコメントを付すことができません。

そこで、コメンテーター養成にあたり、従来からあった認定基準に加え、2017年4月から客観的な判断基準を設けることにし、資格の中核となる3級の認定基準に「日本語検定3級取得」を追加しました。コメンテーターからは、「自分の表現力や文章構成力の実力がハッキリする」「コメンテーター資格の権威

がアップする」など、歓迎する反応がありました。3級の有資格者からも改めて日本語検定を受けて、自分の日本語レベルを図ってみたいという声が上がっています。

当協会は、平成26年秋に、初めて日本語検定の団体受検を実施し、「東京書籍賞」優秀賞を受賞するという栄誉を頂きました。この団体受検を契機に、自分の日本語の総合的能力を知りたいという会員が現れ、個人レベルでの受検者が増えてきました。日本語検定の資格基準への追加の件も、この環境にあったからこそ自然に受け入れられたのではないかと理解しています。

日本語検定委員会の「言葉の力を身に付ける原点は家庭にある」との認識は、当協会の認識と同じです。今後も会員の受検希望者が増えるよう働きかけてまいります。

